

第11回 茨城県移動性・安全性向上委員会 議事要旨（案）

開催日時 平成26年3月4日（火）13:30～15:30

開催場所 常陸河川国道事務所 2階 会議室 F・G

<議事等>

- 1.これまでの事故ゼロプランの取り組み
- 2.H17 交通安全要対策箇所の追加対策
- 3.新たな事故危険区間（H24～）【第2期】の対策立案
- 4.新たな事故危険区間（H26～）【第3期】の選定
（IT等を活用した新たなデータによる事故危険区間の選定）



<主な意見>

1. これまでの事故ゼロプランの取組み、2.H17 交通安全要対策箇所の追加対策について

委員長 : 資料1P7のNo.17,18については、延長が長いこと事故件数が多くなっている可能性がある。しかし、場合によっては1箇所に事故が集中している可能性もあるため、引き続き調査してほしい。

委員長 : No.21 県道203号阿見住吉交差点～土浦市境で出会い頭事故がここだけ多い。写真を見る限り、駐車場のINの看板が視認性に影響を及ぼしている可能性がある。事故原票などから事故発生状況の詳細を確認し対策案を検討してもらいたい。

委員長 : H17 交通安全要対策箇所については、今回PDCAのActionまで来たが、今後はどのように取り組んでいくのか。

事務局 : 今回提案した対策について実施後、4年間の事故データを蓄積して効果を検証し、PDCAを回していく。

3. 新たな事故危険区間（H24～）【第2期】の対策立案について

委員 : 牛久駅西出口交差点は狭く、駅の方から車と人が多いにも関わらず信号が短い。駅方向の信号を長くできないのか。

委員 : 国道6号側の交通量と駅からの交通量のバランスをみて信号現示を検討し設定しているため、現状では駅方向の信号を長くすることは難しい。

委員 : 牛久町の変則交差点は危ないため、右折禁止にできないのか。

委員 : 右折の先に団地があり地元住民の利用が多いため、右折禁止は現時点では難しい。

委員長 : 牛久町の交差点は都市計画道路が完成すれば改善されると思うが、完成までの対策として利用者へ向け右折をしないルートを検討などを行う必要がある。

委員 : 現地診断での指摘の通り、「河童の碑」の看板は場所が不適切である。交差点に入ってから気づくようでは遅いので、牛久市にお願いして手前に移すように働きかけをしてほしい。

（次頁に続く）

委員 : アンケートでの選定箇所の No. 4 国道 50 号水戸市松が丘 2 丁目～西原 2 丁目（区間）については、歩道が狭く細街路から自動車が顔を出すときに出会い頭になりやすい。

委員長 : ミラーを付けるとだいぶ見通しが良くなるのではないかと。

委員長 : 県道 24 号つくば駅前交差点は付近にパーキングがあるが、反対側の学園東大通りから来た車には不便である。停まっていた車が急にでてくることから事故が起きていると思われる。停まるスペースが 1 カ所しかないため、反対側にも駐車スペースを確保してほしい。

委員 : 資料 1 P14 右折指導線のカラー化は効果的だと思うが、他へ展開しないのか。効果はどのように把握しているのか。

事務局 : まだ事例が少なく検証はできていないが、効果があれば積極的に活用していきたい。

委員 : No. 14 松が丘交差点の信号現示の全赤のクリアランス時間は 2 秒から 3 秒に増やしている。No. 5 井野交差点についても 2 秒から 3 秒に変更し対応済みである。

委員 : アンケートで選定された区間については、事故件数が少ない箇所もあり、今後どのように効果検証、フォローアップを進めていくのか。アンケートで指摘を受けたが事故件数が少ない箇所と、アンケートで指摘を受けかつ事故件数が多い箇所については、PDCA の回し方を仕分けした方がよいのではないかと。

事務局 : アンケートで選定された区間や WEB ヒヤリハット調査等は、潜在的な事故危険区間の抽出のため実際は事故件数が少ない箇所もあるため、対策後のフォローアップについては再整理を行い次回委員会で提示する。なお、アンケートで選定された区間の対策案については並行して検討を進め次回委員会で提示する。

事務局 : 今回提示した対策案については、意見を踏まえて次年度以降対策を実施予定。

4. 新たな事故危険区間（H26～）【第 3 期】の選定

委員長 : 松ヶ丘交差点～新原三差路について、このような事故が多いところについては、自転車の飛び出しを防ぐため、交差道路側でハンプなども考えられる。

委員 : この区間は道路自体の幅員が狭いような気がするが、この区間だけ規制速度を 10km/h 下げることができないのか。

委員長 : インターナビは、高齢の方の行動が急減速を過大にしている可能性があるため、データの取り扱いには留意したほうが良い。また、インシデントとアクシデントの関係についても分析してもらいたい。

事務局 : 意見を踏まえ検討する。次回委員会においては対策箇所の選定について提示予定。

5. 今後のスケジュール

事務局 : 次回安全性委員会を 9 月頃に実施する予定

委員長 : 来年度現地診断を実施する際は、冬場は避けて実施してもらいたい。場合によっては委員会よりも前倒しでも良い。

事務局 : 検討する。